

令和6年度第1回学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年5月28日(火) 10:00~12:20

2 場 所 本校視聴覚室

3 出席者

(1)学校運営協議会委員出席者7名

会 長 地域関係者

副会長 教育関係者

A 委員 地域関係者

B 委員 PTA 関係者

C 委員 PTA 関係者

D 委員 医療関係者(欠席)

E 委員 福祉関係者

校 長 学校関係者

(2)本校職員【11名】

4 内 容

(1)学校運営協議会事前会 10:00~10:50

①校長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本校は令和4年7月にこの平田の地に新校舎を新築移転することができました。新校舎完成には、保護者の皆様、地域の方々の多大なる御協力と御支援をいただきまして、あらためて心より感謝申し上げます。

子どもたちは、広い体育館や木の温もりのある教室でそれぞれの個性や持てる力を十分に発揮して生き生きと学習活動に取り組んでおります。

本校の教育目標は「児童生徒一人一人の個性と可能性を最大限に伸ばし、心豊かに生き生きと生活できる人を育てる」と掲げております。また、岩手県は「共に学び、共に育つ教育」を推進しております。

今年度は学校運営協議会初年度設置ということで、釜石市平田地域の皆様を中心とし、新校舎など恵まれた環境、人材を最大限に活用させていただきながら、児童生徒が自分の良さや相手の良さに気づき、互いに認め合い、豊かな心で日々学び合いながら、更なる可能性を広げていけるよう様々な教育活動を充実させていきたいと考えております。

地域とともにある学校を目指し、地域と連携・協働し、地域に貢献しながら果たすべき役割をもって教育活動を推進してまいります。そして、卒業後も地域、社会の中で生き生きとした生活を送れるように、卒業後に向けて今からできること、今だからこそ必要なことを考え実践してまいります。委員の皆様には、学校運営上の諸課題について様々な立場から知見をいただき忌憚のない御意見を願います。

⑦令和6年度岩手県立釜石祥雲支援学校学校概要の説明

④本校学校運営協議会運営要綱の説明

②辞令交付

③学校見学・授業見学

(2)学校運営協議会 11:00～12:20

- ① 開会
- ② 自己紹介
- ③ 役員（会長・副会長）選出

会長挨拶：個人的に、障害や子どもの部門に関わってきた職歴があり、こちらに異動してきたことで支援学校とのつながりに縁を感じている。地域社会との連携・協働をとおしてというところ、お子さんたちの卒業を含めて地域社会の中で生き生きと生活していくというところに貢献できるようにこの会を運営していきたい。

副会長挨拶：指導主事時代に現在祥雲支援在学中の生徒の就学支援に対応したことが、初めて特別支援教育に携わった仕事である。祥雲の子どもたちが実現を果たしている姿や先生方がきめ細かく見ている子どもたちの成就感・達成感を大切にしている様子を見て学ぶことがたくさんあると痛感した。よろしく申し上げます。

④ 議事（進行＝会長）

I)令和6年度の学校経営方針の承認

1 令和6年度の学校経営方針の説明（校長より説明）

2 質疑・協議・承認

・C委員：重点目標の⑥【服務規律の確保】について何かきっかけになる事案があったのか。

→校長：県の方から必ず入れるよう指示があり、全県的なことである。信頼される学校づくりを目指してきたところではあるが、職員により意識を付けるためのものである。

・委員全員の拍手により承認された。

II)地域と本校との関わり

1 新校舎移転後の地域との関わり（総括教務主任より口頭説明）

移転後の地域との関りについて、「人・こと・もの」という視点で報告する。

令和4年8月の移転直後は、新型コロナウイルスの感染症対策がまだまだ必要な時期だったため、様々な制限を行っていた。特に「人との関わり」については、学校行こう週間において15名までの予約・人数制限をして行った。また、学習発表会において、各家庭2名のみでの参観として行った。令和5年5月に5類移行後は、学校へ行こう週間において30名まで人数制限を広げた。学習発表会においては、予約制ではあったが平田地区の方々（20数名）に参観していただいた。令和6年度は、各学部ともに近隣の学校との交流も計画し進んでいるところである。

「こととの関わり」については、平田公民館さんからお声がけしていただいて、昨年度から公民館まつりに作品を出品させていただいている。また、釜石市のふれあい福祉まつり、釜石市民芸術文化祭に作品を出品して、多くの方に本校について知っていただく機会としている。更に、前公民館長さんとあいぜんの里・久保所長さんから「つながるカフェ」についてお話をいただき、手探りではあったが11月に中学部が参加して虎舞の披露等行った。生徒にとっても多様な立場や年齢の方々との交流に、校内だけでは得られない貴重な経験となった。その後、「つながるカフェ」に関わる意見交換の場を設定していただき、平田こども園、平田小学校、大平中学校の取組について情報交換をさせていただいた。本校としては、学校全体で「つながるカフェ」に参加していく方向で動いており、各学部が年度持ち回りで対応していくことになっている。令和6年度は高等部が参加する。

昨年度の芸術鑑賞教室では、釜石商工高校の虎舞委員会をお招きし、鑑賞した。身近な学校の取組を知るとともに、本校の虎舞いの取組のこともあり身近な活動として共感や感動を味わった。

「ものとの関わり」については、地域の商店や公園を利用することを行っている。恵まれた環境の中で学習活動を充実させることができているところである。

最後に、高等部では民間の路線バスで通学する生徒が5名いる。直接的な関わりに加えて、本校について知っていただいたり見ていただいたりする機会をもちながら、今後様々な活動をとおして地域と共にある学校になっていければと願っているところである。

2 各学部における地域との連携・協働の状況と令和6年度の予定

小学部・中学部・高等部・しゃくなげ分教室から地域との関りをもつ行事等について説明

Ⅲ)質疑・提言

- ・C委員：中学部の校外学習では「浜のくまさん」を利用したとあるが、近隣にある防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」を利用する予定はあるか。今まで利用したことはあるか。防災・復興教育の推進を掲げているのであれば、ぜひ活用していただきたい。

→中学部主事：今年度の利用予定はない。

→副校長：昨年度も無かった。

→会長：今年度が厳しければ、次年度以降検討していただきたい。

- ・副会長：シープラザでの製品販売会にぜひ参加したい。掲示されていた売上報告は、子どもたちの目標になっていて成果にもつながっていて素晴らしいと思う。また、作業製品のレベルが高い。その裏には先生方のご指導・支援があり、本校の職員にも学んでもらおうと思う。

- ・A委員：町内会として、町民が災害時に避難場所の体育館へ避難するためにグラウンド隣の公園から抜けられるよう扉の設置をお願いしたところ、早急に対応していただき感謝している。地域としてどのように関わっていくか相談しながら考えたい。

- ・C委員：新校舎に移転して、地域に開かれた学校になった印象がある。平田の皆さんも温かく受け入れてくださり感謝している。

- ・B委員：授業を見て、子どもたちが笑顔で取り組んでいて良かった。

- ・E委員：校内を見させていただき、子どもたちの挨拶がさわやかでほほえましかった。

様々な通学手段で通っていると思うが、災害時における対応について送迎サービス事業所との話し合いはしているか。災害時の迎えは保護者か。震災時、保護者が迎えに行けず、送迎サービス事業所に依頼されるケースがあった。

→副校長：話し合いは行っていない。本校の災害時のマニュアルに従って対応する。

→校長：災害の状況にもよるため、一概に保護者に迎えをお願いするとはならない。災害によって、対応を考えなければならない。メールの使用については、一斉メールを必ず活用することになっている。

→副校長：事業所との情報交換会については、検討したい。

→校長：事業所との連絡・調整は密にしていかなければと考えている。

→C委員：自立支援協議会において話題にしてはどうか。

→支援部長：自立支援協議会でもあがってきているところであり、もう少し広げていければと思う。

- ・会長：いろいろな報告の中に平田地区との交流があげられていたこと、今年度も計画していることに感謝している。「つながるカフェ」「平田公民館まつり」のほかにできることを地域の方と考えていきたい。地域として子どもたちのために何かしたいという思いが芽生え始めている。

IV)報告

1 令和5年度の外部との関わりについて

- ・卒業生の進路状況（進路指導主事より説明）
- ・外部支援について（支援部長より説明）

《質疑》

・C委員：障がい児の就学について、特別支援学校を希望するケースが少なくなっている現状がある。一方で重複障がい児が増えている面がある。このような状況について、学校はどう考えているか。また、支援部として特別支援教育の啓発についてできることはあるか。

→支援部長：外部支援の中で、最近は集団の中で生活するための支援に関する相談が多くなっている。各校での取組、障がいに対する思いが変わってきているように感じる。事業所の利用や行政との連携に関する支援会議にも各校の教職員が参加するケースが増えている。市教委においても、地域との連携に重点を置いて研修会を実施している。支援部としても力になれるようにと考えている。

→校長：インクルーシブの考えにより地域の学校で学べる機会を保障することが大切であることから、地域の学校を希望するケースが増えているとらえている。就学に関しては、法律に則って市の就学支援委員会で検討が進められる。本人・保護者の希望と専門家の方々の助言等で協議し、判定される。本校の場合、知的障がいのお子さんがほとんどを占めているが、そのお子さんたちも減少傾向にある。児童生徒数の減少は本校だけではない。特に病弱の支援学校では少なくなってきた。障がい重度であっても保護者さんが支援学校を望まない場合、学校の環境整備等や職員体制が整うのであれば、普通校に進むこともあるだろう。

2 令和6年度釜石祥雲支援学校「働き方改革アクションプラン」(副校長より説明)

- ・C委員：働き方改革について、市内の某小学校では学級通信、出欠確認、行事等の連絡などアプリを活用して行っていて、業務負担軽減につながっているようだ。

→副会長：本校でも連絡用に活用しているツールはある。欠席連絡については、保護者との連携の観点から導入していない。事例にあげられたケースでは、予算が生じると思われる。

→副校長：本校では今年度から、有料の学校連絡網システムを導入した。費用はPTAから捻出することをPTA総会において承認を得た。出欠確認など他のツールはオプションとなり追加料金が発生するため、基本プランのみとした。

→校長：出欠確認については、所在の確認をする必要があるため、保護者と直接やりとりをしていく考えである。

3 その他

V)その他

VI)連絡事項

第2回の協議会は令和6年11月26日（火）午前実施

5 閉会